

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 新潟市立白新中学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒951-8133  
新潟市中央区川岸町2-4  
E-mail j303hakushin@city-niigata.ed.jp  
Website http://www.hakushin.city-niigata.ed.jp/  
幼児児童生徒数 男子 107 名 女子 92 名 合計 199 名  
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

当校は、「知性の高い生徒になる」の教育目標のもと、『未来を切り拓く確かな力』を育む教育課程の編成に取り組んでいる。その中で、ESD を①国際地域理解教育②環境教育③人権教育の分野から実践している。

#### ① 国際地域理解教育に関わる活動

##### ア 生徒会活動

- ・ 国際・地域交流委員会が昨年度より継続でペットボトルキャップ回収運動を行い、子どもワクチン支援を行った。
- ・ 地域で行われる祭りに2日間参加し、地域の方とともに多くの職員、生徒が参加した。

##### イ 学校づくり委員会や地域の方々との連携

- ・ 地域の有識者、保護者や生徒・職員が学校の未来を語り合う「学校づくり委員会」において、今年度創立70周年を迎えた白新中学校がこれまで大切にしてきた『白新魂』を明らかにする活動を行った。この活動を受けて、文化祭において「白新シンポジウム」を開催し、これから受け継ぐべき『白新魂』を生徒・保護者・地域・職員、総勢400名のファシリテーションで熱心に語りあった。

##### ウ 各教科

- ・ A L T の授業において世界の行事について取り扱い、諸外国の文化に親しむ活動を行った。
- ・ 音楽科の授業で地域に伝わる『木遣り』について講師をお招きし、歌い方だけでなく、その歴史や文化について学び、その成果を合唱発表会で全校で披露した。

## ② 環境教育に関わる活動

ア 生徒会活動における実践

### 【活動例】

- ・ 重点清掃(清掃強調習慣)
- ・ 生徒玄関の花の管理
- ・ プール清掃企画
- ・ 古紙回収
- ・ 万代橋チューリップ活動参加
- ・ ワックスがけ

イ 各教科における実践

- ・ 社会科で持続可能な社会の構築のための、地域における環境保全の取組の大切さを考えた。
- ・ 技術・家庭科で生物の生育環境と生育技術、生物の育成に関する技術を利用した栽培を行った。

## ③ 人権・同和・福祉に関わる活動

ア 道徳教育における実践

- ・ 人間尊重の精神を日常の生活の中に生かし、人間の尊厳や生き方についての自覚を深めさせる授業の実践を行えるよう道徳部と連携し、人権教育副教材を用いた授業を促し、道徳授業についての校内研修を行った。

イ 生徒会活動における実践

- ・ 生徒指導部及び規律委員会と連携し、人権への意識を高めるために、いじめ見逃し0スクール運動の実施を行い、正しい人権観を持つことができるよう促した。

また、これら①～③の活動を横断するものとして、総合的な学習の時間の3年間の共通のテーマを「ESDの観点から新潟市が持続可能であるための要件を提案しよう」としている。



①イ 学校づくり委員会の様子



①ウ 合唱発表会の木遣り披露の様子



総合的な学習の時間 テーマに基づき地域で追究活動をしている様子

## (2) 活動の詳細

### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特にありません。
----------

- ① ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

特に総合的な学習の時間において、ESDに基づく教育課程を編成している。  
具体的には、地域（ひと・もの・こと）に関わる今日的な諸問題を窓口とし、各学年部に分かれて段階的に追究する課題を設定している。1学年の入門期においては、様々な地域が抱えている課題をグルーピング・ラベリングする活動を通して、その後の追究の観点を獲得する。2学年では「現在の新潟市」の追究を通して、新潟市の抱える問題を考える。これらの学習を踏まえ、3学年では新潟市のよさと課題、これからの対策などを明らかにし、地域が今後も継続的に発展していくために自分にできること卒業論文でまとめるという教育課程を編成している。

- ② 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

総合的な学習の時間で『新潟愛 LandWalking』を設定し、1日かけて校外に出たり、講師を招いたりしやすい時間の設定を行っている。また、校務分掌の中にESDを位置づけ、研究主任をキャップとしながら、①国際地域理解教育②環境教育③人権・同和・福祉教育の担当者がリーダーシップを発揮し、各教育活動を展開している。年度当初に1年間の活動計画を全体で共有し、夏休み中に取組状況を確認しながら、PDCAサイクルで教育活動を展開している。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

#### 内部評価

##### ① 生活意識調査

年末に全校生徒を対象とした教育活動に関するアンケートを実施している

#### 外部評価

##### ① 研究発表会における評価

・研究発表会を11月に開催し、全体研究の発表、ほぼ全教科の授業を公開し、外部からの評価を得ている。

#### 成果

○ アンケート項目の「地域のことにふれたり、調べたりする学習が好き」、「地域の大人から話やアドバイスを聞いて、分かったり、できたりすることがよくある」について肯定的な回答をする生徒が多い。

#### 課題

● 各教科でのESDにかかわる実践が単発に終わっており、ESDを基にしたカリキュラム・マネジメントの必要性がある。

」

④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

11月に開催した研究発表会において、国際地域理解教育の1つとして「学校づくり委員会」の取組を発表し、研究紀要においてESDに基づく総合的な学習の時間の取組を発表し、外部からの評価をもらった。

県内外400名の参会者から意見をもらうことで、当校の取組のよさ、課題を再認識することができた。

⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

毎年3回程度行っている「学校づくり委員会」では、地域コミュニティ協議会正副会長、学校評議員（大学教授を含む）、育成協正副会長に参加していただき、地域の一員として中学生に期待することや地域の現状、課題などを話していただいている。

⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

今年度は特に活動を行わなかったが、韓国の蘆原中学校と姉妹学校の協定を調印している。

⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

総合的な学習の時間において、ESD に基づく教育課程を編成していることで、ESD の考え方を生徒が理解しはじめている。これにより、各教科においても単元によって、学習内容を持続可能な世界を作るためにはという視点で考えさせたりすることができ、一部ではあるが教科横断的な学びを展開することができている。

また、生徒や職員が地域とのつながりを大切にしようとし、様々な教育活動において地域に出たり、地域の方に来ていただいたり、「共に歩む地域の学校」として地域と一緒に子どもを育むことができている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

今年度同様に総合的な学習の時間を中核としてユネスコスクールとしての活動を展開していく。特に 3 年時の学習において、新潟市を探究する視点として、ESD の観点を提示し、それぞれの窓から自分たちが住んでいる新潟市の未来を提言することができるようにする。

また、各教科において ESD の観点から単元配列を考え、教科横断的な学びを今まで以上に生み出すことができるよう、カリキュラム・マネジメントを行っていきたい。

さらに、当校の伝統的な生徒会活動の 1 つである W・W 活動（「地域を歩き（Walking）、地域や社会の現状や課題を知り、課題克服のための貢献活動をする（Working）」）を見直し、生徒たち自身で課題を見つけ、自分たちに何ができるのか考えて、企画運営できるものにしていきたい。